

平成 26 年 3 月 1 日

平成 25 年度学校経営報告書

八王子市立片倉台小学校
校長 山 崎 富 子

1. 今年度の取り組みと自己評価

(1) 教育活動への取り組みと自己評価〔別紙 1 平成25年度 学校経営計画(目標と方策)〕

①教職員の資質向上と組織的な学校運営

*校内研究の推進

- ・国語 研究主題

「自分の考えをもち、お互いにわかりやすく伝え合う力の育成」

- ・第 1 回研究授業 9 月 11 日(水) 1 年 1 組 講師 長谷川 典子先生
元八王子市教育センター研究主事
- ・第 2 回研究授業 10 月 23 日(水) 4 年 2 組 講師 長谷川 典子先生
元八王子市教育センター研究主事
- ・第 3 回研究授業 11 月 20 日(水) なかよし学級(報告会)
- ・第 4 回研究授業 12 月 4 日(水) 6 年 2 組 講師 長谷川 典子先生
元八王子市教育センター研究主事

*授業改善の充実

- ・全教員による授業公開を平成 26 年 1 月 20 日(月)までに終了。
- ・プロジェクター、スクリーン等を購入し、ITC を活用した授業を工夫してきた。

*服務事故ゼロ

- ・服務事故を起こすことなく、1 年間を終わることができた。

*新学習指導要領完全実施に向けての準備完了。

- ・教務主任とも連携し、平成 26 年度の教育課程も適正に計画することができた。

②学ぶ意欲と確かな学力の定着

*土曜日補習授業の実施(年 10 回)により、学習意欲の向上に努めた。

*地域人材の活用(注連飾り作り、俳句、茶道体験、絵手紙、語り聞かせ等)や第一線で活躍している方々(マリンバ、天文学等)を招き、体験的な活動を多く取り入れて子供の意欲向上に成果を上げた。

*平成 25 年 12 月 14 日(土)ラブジョイ彗星観望会実施。天文スタッフ・地域・保護者の協力を得て、観望会を行い、ふたご座流星群・火星・木星・土星等を見ることができ、児童の学習意欲向上につながった。

*各家庭の協力を得て、家庭学習が定着し、8 割以上の児童が実施している。

*学力調査では、それぞれの学年(4・5・6 年生)で、都や市の平均正答率を上回る項目が多く、8～9 ポイント上回る項目もあった。

③健全な心身の育成

*生活指導の充実(週 1 回の生活指導朝会を行い、情報交換した)

*ゲストティーチャーによる歯磨き指導を 1・3・5 年で行った。

*由井中・中山中と連携し、PTA・地域の方にも協力をいただき、年 3 回の「あいさつ運動強化週間」を実施し、「すすんであいさつする児童」が 8 割以上になった。

*スクールカウンセラーと連携し、休み時間に「キャンディーボックス」を行ったり、4 年生が全員会食を行ったりして「児童の健全な心の育成」に努めた。

④特別支援教育の充実

*特別支援委員会の実施により、児童の指導を充実

- ・特別支援委員会で検討し、特別支援学級の担任とも連携し、支援が必要な児童についてよりよい指導について保護者と話し合うことができた。
- ・通級学級の担任と学級担任が連携し、支援が必要な児童の指導について相談したり、全教職員で共通理解を図ったりした。
- ・スクールカウンセラーを活用し、保護者や児童の相談を受け、不安解消に努めた。
- ・学校サポーター、ボランティア等を活用し、個に応じた指導ができるよう努力した。

*平成 22 年 4 月に特別支援教室を開級し、児童数が予想以上に増加したため 4 学級になったが、円滑に運営することができた。

⑤安全な教育環境の整備

- *地域・関係機関と連携し、安全教育を充実
 - ・セーフティ教室、交通安全教室等地域の協力を得て行うことができた。
 - ・地域との連携で「放課後子ども教室」を実施し、高学年の参加率も高く、遊びだけでなく充実した運営が行われている。
 - ・体育館の耐震工事を無事に終了することができた。

⑥特色ある教育の推進

- *たてわり班活動を中心とした異年齢児童の活動を充実
 - ・たてわり班で栽培活動やたてわり班遊びを行い、高学年が低学年児童の面倒をよく見ている。(児童アンケートまとめによる)

⑦保護者・地域と連携し、開かれた学校の推進

- *教育活動情報の発信を充実
 - ・月2回の学校便り発行、ホームページの充実等を行った。
- *学校評議員会の開催、職員会議への参加
 - ・学校評議員会は、年3回実施した。また、学校評議員1名が、職員会議に8回参加した。
- *児童のアンケートを実施した。(児童アンケートまとめ)
- *読み聞かせボランティア、栽培活動ボランティアの募集
 - ・PTAと連携し、火曜の朝読書には、保護者が読み聞かせに来てくれたり、図書室の整備をしてくれたりした。正門横の花壇は、保護者が、整備してくれた。

(2) 重点目標への取り組みと自己評価

①学ぶ意欲と確かな学力の定着

- *少人数算数指導の充実と改善
 - ・習熟度別の指導を取り入れながら実施し、学力定着度調査でも成果を上げることができた。
- *家庭学習の習慣化及び充実
 - ・家庭学習の手引きを全家庭に配布し、保護者の協力を得て、自主学習の習慣が身につく(家庭学習の手引き、児童アンケートまとめ等による)
- *授業時数の確保
 - ・予定通り授業時数の確保ができた。
- *年間を通した15分間の朝学習の確保
 - ・火曜(読書)木曜(くり返し学習・音読暗唱・計算等)の15分朝学習を年間通して行った。
- *総合的な学習の時間の充実と改善
 - ・各学年で地域のゲストティーチャーや保護者を招き、授業を行った。
2年(読み聞かせ、町探検等) 3年(昔遊び、七輪体験、手話体験等)
4年(絵手紙、盲導犬についての話、菊作り等) 5年(茶道体験、しめ飾り作り等) 6年(俳句、茶道体験等)
 - ・ラブジョイ彗星観望会(東京学芸大学名誉教授 水野孝雄先生他) マリンバ演奏(新谷祥子さん) ふれあい天文学(国立天文台 中村文隆准教授) 他

②健全な心身の育成

- *いじめ、不登校ゼロの実現。(スクールカウンセラー等の有効活用による)
- *あいさつ運動の充実
 - ・毎週金曜日のあいさつ運動では、児童の方からあいさつできる子が増えた。また、毎朝交差点で児童の安全を見守ってくださる方からもよくあいさつするようになったとお褒めの言葉をいただいた。
- *小中一貫教育による「あいさつ運動」の実施(年3回)

③小中一貫教育の充実

- ・由井中学校(授業参観による交流、教員の合同研修[パワーアップ研修]、由井中による着衣水泳指導の実施。生徒会による学校説明会、由井中学校長による出前授業等を実施。更に一貫教育を充実していく)
- ・中山中学校(授業参観と意見交流会実施、青少対行事の交流[新春お餅つき大会])

2. 次年度以降の課題と対応策

(課題) ①学力向上

学力定着度調査では、平均正答率でかなり都や市の平均を上回る項目があり、ある程度の成果を出すことができた。今後もこの水準を維持できるよう更に努力していく。

- (対応策)・家庭と連携し、「家庭学習」を習慣化し、補習授業の充実等で底上げを図る。
・平成26年度、補習授業実施について内容の吟味を進めている。

(課題) ②小中一貫教育の充実

・中一ギャップ改善のために対応策を考える。

- (対応策)・本校は、3年前から毎年学級編成替えを実施している。
・高学年の交換授業等を取り入れたり、学年での交流を増やしていく。

(課題) ③基本的な生活習慣の定着

保護者アンケートから「児童の言葉遣いやあいさつ」について一定の評価は、いただいが十分とは、言えない。

- (対応策)・今後も全職員で継続的にあいさつ運動や言葉遣いについての指導を行っていく。

(課題) ④道徳教育の充実

保護者アンケートから「人権」に関わる授業がどのように行われているかが保護者に伝わりづらい面がある。

- (対応策)・道徳の授業の様子をできるだけ詳しく保護者に伝えると共に、授業を工夫し、児童が人生についても考える機会を増やしていく。
・道徳授業地区公開講座を土曜日に実施したことで講演会への参加者も増え、評価を得た。次年度も継続する。

(課題) ⑤特別支援学級の円滑な運営

平成22年度に開級した「特別支援学級」は、平成26年度も4学級になる。

- (対応策)・早めに見通しを立て、全教職員で連携して運営、課題解決にあたる。更に指導を充実させ、担任との連携を深める。

(課題) ⑥地域と更なる連携を図る

- (対応策)・7月 自治会の夏祭りを本校校庭で実施。(平成26年度 第34回夏祭りを実施)

*自治会、PTAと更に連携し、夏祭りを実施していく。

- ・10月 平成26年度は、土曜日に自治会と連携し、総合防災教育を実施する。今までと同様に地域・保護者の方にも参加していただく。また、5、6年生は、初期消火訓練、AEDの使い方・心臓マッサージ等の体験を行う。

(課題) ⑦平成27年度に創立40周年を迎える

- (対応策)・早めに実行委員会を立ち上げ、準備を進める。